

公益財団法人京都YMCA

2016 年度事業報告

2016 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日



1、2016 年度事業報告

2、事業概要

3、データ編

公益財団法人京都YMCA

〒604-8083 京都市中京区三条通柳馬場東入中之町2番地

2016 年度事業報告

2016 年度年間聖句

平和を勧める人の心には喜びがある。

旧約聖書 箴言 12 章 20 節

2016 年度事業計画

京都YMCAの自然体験や、スポーツ活動、文化活動を通して、プログラムに参加する一人ひとりの全人的な成長を促し、健やかな心と体を育みながらたくましく成長をはかる活動を展開する。

プログラムを通していのちを守ることの大切さを学ぶとともに、生涯にわたって生き生きとした人生を歩み、社会の一員として貢献できるように指導する。

2016 年度事業計画

- ① メンバーシップバイデザインの取り組みを進め、プログラム参加者のYMCA活動への参画を促進する
- ② 水上安全キャンペーンを昨年に引き続き実施しYMCAウォーターセーフティハンドブックを近隣の小学校に配布する
- ③ 病児及び発達障がい児の支援プログラムを充実させる
- ④ 少子化の進展に対応した取り組みを行う
- ⑤ 超高齢化社会に対応した活動を推進する
- ⑥ 地域社会が必要とする活動の研究を行い新しい活動の開発と展開を図る

こどもから大人まで全ての人がボランティアを通して地域社会ならびに国際社会に貢献することができるように、ボランティアを育成し、ボランティアの手による地域社会および国際社会への貢献事業を進める。

2016 年度事業計画

- ① ボランティアセミナーや啓発プログラムを通じてボランティアの拡大を行う
- ② チャリティーイベントへの府民参加の拡大を図り公益活動の理解を広める
- ③ グローバルな視野を持ちリーダーシップを発揮できる人材を育成する
- ④ 全国のYMCAとの協力のもと東日本大震災復興支援事業を継続して実施する
- ⑤ 公益活動のための助成金の導入と寄附金拡大を図る

2016 年度を振り返って

2016 年度は年度始まって間もない 4 月の 14 日 16 日と熊本市を中心に起きた大きな地震が起こり多くの被災者がでた。熊本 YMC A が中心となって全国の YMC A が協力して被災者支援活動を行ったが、京都 YMC A でも被災者支援のための街頭募金などを行い被災者支援活動が行われた。

長らく交流を続けてきた中国の厦門 YMC A と今年の 10 月に正式に、パートナー YMC A としての締結式を厦門 YMC A で行った。インドのランチ YMC A、韓国の仁川 YMC A、台湾の台中 YMC A に続き 4 つ目のパートナー YMC A としてこれから交流を続けていくこととなる。昨年第 1 回として仁川で開催された韓国（仁川 YMC A）台湾（台中 YMC A）との 3 YMC A 会議が今年は京都で開催され、その際に京都 YMC A と仁川 YMC A とのパートナー締結 40 周年の記念の会が持たれた。

また、障がいのある子どもや、病気の子どもの対象とした子育て支援の取り組みも引き続き行われた。

子どもの水の事故を無くすための取り組みとして市内の小中学校への「水上安全ハンドブック」の配布や着衣水泳の指導等を行う水上安全キャンペーンの取り組みも昨年に引き続き行われた。

公 1 公 2 のそれぞれの事業において、その活動を通じてこの年も多くの青年、成人ボランティアが関わり育った。以下に 2016 年度の特徴的事柄を記す。

〔公 1 こどもから大人までの健全な心身の発達を促進するウエルネス事業〕

日常プログラムの登録者は 1646 名と前年同時期とほぼ同じ人数であった。

しかし内訳をみると青少年が昨年の 1320 名から 1290 名と 30 名減少し、成人が代わりに 327 名から 356 名と 29 名の増なった。

年代別にみると成人ウエルネス事業参加者は、前年 327 名と減少したのが各年代層で少しずつ増加した結果となった。青少年では、未就学児が 28 名増えたのに対し、小中学生合わせて前年より 54 名減少し減少傾向にある。

また、講習会の参加者は、夏期プログラムでは夏期キャンプが 480 名とほぼ前年並みとなり 2 年前からの減少傾向からなかなか回復できていない。夏期講習会は体操教室系が 30 名近く人数を増やしたこともあり、前年より 44 名の増加となった。

結果、夏期プログラム全体では、昨年より 45 名の増加となり昨年減少となった数を挽回する結果となった。

一方、冬期・春期プログラムも、昨年は前年の 1092 名から 741 名と大幅な減少であったが今年度は 986 名とやや人数を戻した。特にスキープログラムは昨年スキーバス

の事故の影響で人数を前年の 664 名から 354 名と大きく減らしたが今年は冬春合わせて今年 572 名と人数をかなり戻してきたが一昨年の数には戻っておらず減少傾向に変わりはない。

冬期春期講習全体では 741 名から 986 名と昨年的大幅減からかなり挽回してきたが、前年の 1092 名までは戻ってきてはいない。

今年も活動の中で 10 月の国際協力街頭募金にはスイミングや体育の子どもたちまた野外活動参加者たちが、当日講師を招いての国際理解についての学びを深め、その後京都市内各所で国際協力募金への協力呼びかけを行った。

第 12 回となった、障がいのある子どもたちのプログラムを支援する国際チャリティーランが 5 月 22 日に北大路橋南のかもがわ公園をメイン会場に開催され、多くのユースボランティアや京都 YMC A のプログラムに参加している子どもたちが参加し、一般の参加者とともに障がい児支援プログラムへの協力を行った。

昨年度に開始した近隣の共働き家庭や、ひとり親家庭の子どもたちを対象とした放課後プログラムであるアフタースクールは昨年の 5 名から今年度は 12 名に増えた。

高齢者の筋力トレーニングプログラムは、多くの高齢者が参加し毎回定員に達しているため、クラスを 2 クラス新たに開講した。

今年も子どもたちを水の事故から守るためのキャンペーンを実施し、6 月 19 日には「いのちを守る水泳講習会」として一般の方を対象に無料で着衣泳講習会を行い 49 名が参加した。また水上安全ハンドブックを 29 の小学校に 9221 部配布し、市内 2 校での着衣泳講習会の指導を行い、小学校教員を対象とした救急救命講習（6 月 1 日）も実施した。

小学生ドッジボールクラブは、日頃の練習の成果を発揮し、京都府予選を勝ちぬき、3 月 26 日北九州市で開催の全国小学生ドッジボール選手権に出場した。

3 月 19 日 20 日と今年も京都 YMC A 主催で第 4 回 The Y cup 京都ミニバスケットボール大会が横大路運動公園体育館を会場に開催され京都府下のミニバスケットボールチーム男女各 8 チームが集まり日頃の成果を競う試合を繰り広げた。この大会では、毎年京都 YMC A をサポートするワイズメンズクラブが参加者への昼食提供を行っている。

昨年から全国の YMC A と共同で始めたいじめ撲滅のためのキャンペーン「ピンクシャツデー」が今年文部科学省からの後援もつき全国的に展開された。京都 YMC A でも、2 月 22 日を中心に「ピンクシャツデー」のイベントを行い、いじめをなくすための呼びかけを行った。

この様に京都 YMC A の様々なプログラムに参加することで子どもたちが多くのボランティアに触れたり、様々な国際的視野を広げる機会を通して子どもたちの成長を促す活動を進めてきている。また成人のプログラム参加者へも京都 YMC A の活動への理解を深める働きかけを通じて奉仕活動基金や国際協力募金への理解と協力をしていただいている。

〔公 2 ボランティアによる地域社会及び国際社会への貢献活動〕

4月14日と16日にかけて強い地震が熊本県で発生し、中でも震度7を2回も経験した益城町では多くの家が倒壊し大きな被害が出た。

益城町から総合スポーツセンターの指定管理を受けていた熊本YMCAでは、多くの被災者を受け入れ、その日から総合スポーツセンターは避難所となった。

全国のYMCAでは、熊本YMCAにスタッフや物資を送り被災者支援事業に取りかかった。

京都YMCAでは、震災後すぐの4月24日と5月15日に緊急街頭募金を行い被災者支援のための活動を始めた。また、京都府災害ボランティアセンターと連絡を取り、被災者支援活動を協力することとし、4月24日に京都府災害ボランティアセンタースタッフ、京都府防災担当スタッフとともに熊本入りし、現地で被災者支援活動を行っている熊本YMCAを訪ねて現地の状況の聞き取り並びに避難所となった益城町相互スポーツセンター等の視察を行った。その後京都府災害ボランティアセンターから熊本YMCAへの被災地支援活動用資材の貸し出しの取次や熊本YMCAが行う阿蘇地域での被災者支援活動に京都府災害ボランティアセンターが募集したボランティアを送ることになるなどYMCAネットワークを活かして他団体との協力の中で被災者支援活動を行った。8月19日～21日の日程で、京都YMCA独自で市民ボランティアを集めて熊本地震復興支援ボランティアを熊本に派遣した。

11月には、3日に復興支援ボランティア報告会を兼ねて「熊本地震を通して考える民間の災害支援のあり方」というテーマで講演会の開催や、京都で災害が起こった時の対応を自分たちで考える「第3回防災ワークショップ一緒に考えましょう減災」を11日に社会セミナーとして開催した。

国際プログラムも今年度様々な取り組みが行われた。

8月4日から6日まで広島で行われた「YMCA国際青少年平和セミナー」に京都YMCAからユース3名を派遣した。また昨年に引き続き8月に中国の厦門で行われた国際ナショナルワークキャンプに今年は京都YMCAからユースボランティア3名とスタッフ1名を派遣し、中国、台湾、韓国の青年と共にプログラムを実施した。

また8月29日から日本YMCA同盟主催で行われた「地球市民育成プロジェクト」にユース2名を派遣した。

9月24日には、子どものための国際理解ワークショップ「世界子ども広場」を開催し小学生28名が参加し、ゲームやワークショップを通して国際的な問題について理解する機会を持った。

10月15日には、アジア保健研修所(AHI)の巡回報告会を京都YMCAで開催し、フィリピンのスレー島での取り組みについての活動報告会を開催し18名の参加者があった。12月2日には、「働き方の選択～自分のやりたいこと？結婚？稼ぎ？あなたのライフデザインは？」というテーマでパネリストとして日本人の若者と外国人の若者によるパネルディスカッションを開催し約30名の参加者があった。

2月25日は昨年に引き続き「平和のための開発教育セミナー」を開催し、学校教員等17名の参加者があり、参加した先生方からもっと開催して欲しいという評価をいただいた。昨年からネパールチャリティーバザーとしたバザーを今年もネパールYMCAが行っている児童養護施設支援のためのチャリティーバザーとし、2月5日多くのボランティアの協力で実施した。

昨年韓国の仁川YMCAを会場に開催された京都YMCAが協力関係を結んでいる台湾の台中YMCAと韓国の仁川YMCAとの3YMCA合同会議が今年も京都で開催され京都YMCAからも役員及びスタッフが参加し今後の共同で行う国際協力事業やユースプログラム等についての協議を行った。

次にボランティアの養成及びボランティアの働きに関しては、「がん患者さんの会」は今年も引き続き定例的に継続して行われている。

ボランティアの養成講座として10月1日に、「視覚障がい者サポート講習会」を開催した。1月14日にはボランティアセミナーとして「わたしと私の災害支援」と題して、災害時の支援のあり方や障害のある方への支援について学ぶセミナーを開催し、30名近くの参加者があった。

登録ボランティアグループの活動としては、朗読ボランティアグループ長岡こおろぎが5月、11月にリスナーと交流する「ふれあいの会」を神戸動物王国（5月）と舞鶴（11月）で行った。YMCAこおろぎは、10月2日に第31回のふれあい広場をリスナーボランティア等74名の参加で伊勢シーパラダイスへ行った。聴覚障がい者プログラム研究会マイ・マイでは2月に冬キャンプを実施した。障害のある子どもたちの創作教室パレットでは、8月に子どもゆめ基金からの助成を得て8月27日に京都YMCAのサバエ教育キャンプ場でのデイキャンプ「かがやく夏のワンダーランド」や2月4日から5日にかけての1泊で大津市葛川少年自然の家でのスキープログラム「きらめく冬のワンダーランド」を開催した。

東日本大震災の復興支援プログラムとして8月7日～11日の日程で福島県からの親子7家族22名を招いてリフレッシュファミリーキャンプを行った。